

今回は、1年生のオンラインセミナー 第8回 の報告です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学online」

今年度は、例年夏休みに行っているフィールドワークに代わって、オンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の27企業と生徒が意見交換を行い、各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞きました。

各企業と生徒の交流について、第1回から第27回までシリーズで紹介します。

◇ 第8回 株式会社 西村組

◆解体工事業・処分業

関市の豊岡町に拠点を置き、創業48年を迎えました。CB塀のような小さなものから学校の校舎のような大きなものまで様々な構造物の解体工事を行っております。また、弊社では木くずの中間処理も行っており、解体現場から発生した柱や梁等の木くずを破碎し、燃料チップとして再生しております。



SDGs	取組中		今後の目標		
------	-----	--	-------	--	--

◆オンラインセミナー「関ジモト大学online」に参加した生徒の感想

- ・解体した後に出るもののほとんどがリサイクルできるということを知って驚いた。木材のくずは紙を作る燃料、ガラスはビン、コンクリートはコンクリートの下に引いたり、資源を無駄にしないようにしているということがすごいと思いました。また、解体する近隣の方への挨拶や、お客様との関係を深めるなど、コミュニケーションを取ることもとても大切だと思いました。
- ・今まで通りの大量生産や大量消費ではやっていけないということを知りました。コロナの関係で、解体業は斜陽産業になっているそうです。そこで、これからは、ひとりひとりの要望に応じた“オンリーワンのものづくり”が大切になっていくそうです。これは建築業界に限ったことではないなと思いました。将来、AIに仕事を奪われていきます。だから私たちは、AIにはできない、ひとりひとりの要望に、人間にしかできない世界で1つの「オンリーワン」に対応することがとても大切であると思いました。
- ・環境や周囲への配慮がなされていることに感心しました。法律により、特定建設資材と呼ばれるコンクリート、アスファルト、木材などがどれくらい出るかなど、解体の前に役所に届けて、必ずリサイクルし、その他の素材も、価格が高くてでもできるだけリサイクルしようとしています。SDGsを意識してリサイクルセンターを開設し、環境も大切にされていました。また、防音シートや防災シートなどを使い、周囲に迷惑をかけないことも心がけていることがわかりました。